

フードドライブポスト設置

バローHD 多治見市全10店に



フードドライブポストを前に子ども食堂運営団体の代表らと食品の寄付に協力を呼びかける高木貴行市長(後列左から3人目)、秋元武室長(同4人目)ら＝多治見市若松町、バロー多治見店

式では高木市長が「子ども食堂は居場所、食事提供、コミュニケーションの場。ポストを活用して支援の輪を広げ、子どもが育ちやすい環境を整えたい」とあいさつ。市のマスコットキャラクターうながっぱをデザインしたポストに、食品を投入する実演をした。

バローHDの秋元武室長は「お膝元の多治見でも早く活動したかった。子どもにはおなかいっぱい食べてほしい。地域の皆さんが活動を知って協力してもらえたら」と願った。

多治見ながせ商店街で月2回開く「こどもにじいろ食堂」の福島道子副代表(57)は「幅広い年代のお客さんに意識してもらえ。食堂利用者にはひとり親家庭も多い。食品が少しでも広く渡るようたくさん集まれば」と期待した。

(小森直人)

バローホールディングス(HD)は19日、多治見市内のスーパーマーケットバローとVドラッグの全店舗となる計10店に「フードドライブポスト」を設置した。家庭では消費し切れない食品を持ち寄って投入してもらい、市内の子ども食堂に提供する。同市若松町のバロー多治見店で高木貴行市長や子ども食堂運営団体代表らも出席して設置式が開かれた。

バローグループは2年前から店舗にフードドライブポストを設けており、設置は県内では10市町目。東濃地域では恵那市、中津川市に続く設置となる。募るのは缶詰やレトルト・インスタント食品、乾麺、米、菓子、アルコール以外の飲料。常温保存可能な未開封の食品で、賞味期限まで1カ月以上あるものに限る。ポストは店内に常設、各団体は都合が良い時に立ち寄って食品を持ち帰る仕組み。